

ゲットは若年層から高齢者まで幅広く、一般的にローンを組むことが困難と考えられる若年層には、中古物件の購入とリノベーションを勧め、省エネ設計が少ないアパートに住み続けるよりも、家を持つことの良さを強調します。一方、50〜60歳代には、将来に備えたバリアフリー対応を提案し、車いす生活になっても広い空間で出入りしやすいトイレの設計などを勧めています。どの年代にも推奨しているのは、寒い沼田の冬を快適に過ごせるように断熱性を高めること。床や壁には高性能断熱材を入れ、さびた鉄の水道管からポリエチレン管に取り替えて凍結防止に役立てます。

インテリアコーディネーターとして石坂さんと共に働く妻の裕子さんは、

ぬまた起業塾2期生。当時はフリーランスで、今後の事業拡大の可能性を探るために入塾し、「学びは今も生きている」と笑顔をのぞかせます。

石坂さんは裕子さんの勧めで、開業後まもなく入塾を決意。農業や飲食業、ウェブデザイナーなど多種多様な職種で年代も幅広い同期生がおり、建築畑しか見ていなかった石坂さんには新鮮でした。青山社中柳筆頭代表で塾頭の朝比奈一郎さんの講話や、ビジネスプラン作成からよりよい経営のためのノウハウを身に付け、補助金などの経営サポート資金についての選択肢も広げました。同期生とは卒業後も良い関係を築き、「分野は異なっても、ビジョンを持って頑張り続ける同志から刺激を受けています」と話します。同

期生から仕事の依頼があったことに触れると「身近な人の力になってうれし」と顔をほころばせます。

商談などには裕子さんも同席し、それぞれ得意分野を生かしながら進めます。石坂さんは設計や契約、現場管理など家の基礎を担当し、裕子さんは家具の配置や色味、間取りなど住空間を提案します。裕子さんは団らんが自然に生まれる空間づくりを得意とし、「キッチンから顔が見えるだけで人は安心します」と話します。近年はアトピーやぜんそくを引き起こす原因となるシックハウス症候群の対策にも配慮し、無垢材や体に優しい塗料を用いた住まいづくりを力を入れています。

独立は給料の保証がなく、ましてや新型コロナウイルスの不安定な時代での決断に勇気がいったという石坂さん。開業1年を迎える今、「後悔はないです。やってからの苦労の方が魅力的」と断言します。培ってきた経験を生かしながら、思いをより形にできるように

なっただけでなく、家族と過ごす時間も増えて充実しているといいます。同塾のテーマで、一人一人がリーダーとなり道を開いていく「始動力」は、「私の行動指針。学びが自信に変わっていると実感しています」と力強く語ります。家の設計と同様に、仕事や人生のリノベーションも必要。自分らしさを大切にしながら、これからも快適な住まいづくりに挑戦し続ける石坂さんの手腕に期待です。



写真上) 昔ながらの独立型キッチンを対面型にリフォーム。リビングで過ごす家族と会話が弾む(下) 木造住宅でもまきストーブの設置は可能。ピジューアルも映えて、とにかく暖かい

＼ 築45年の木造住宅がリゾート空間に ／



ふすまで区切られた8畳の和室



必要な柱を残してスペースを広げる



開放的なリビングに変身